

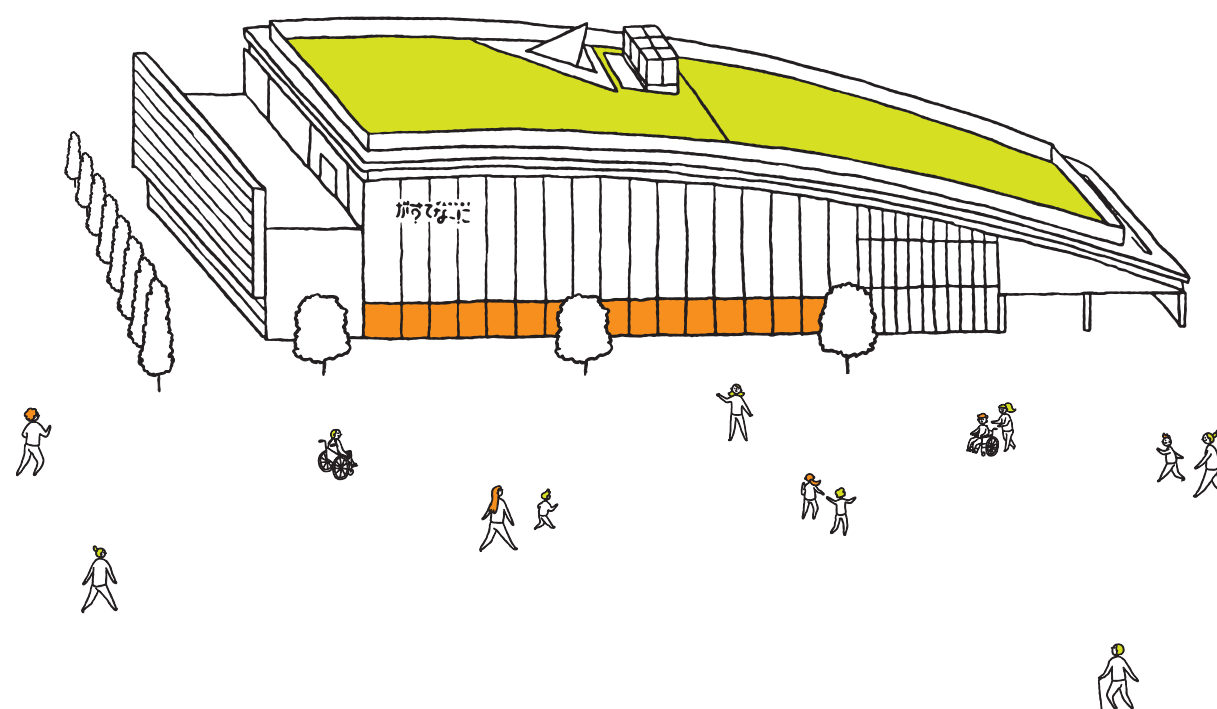
がすてなーに ガスの科学館

ユニバーサル コンセプトブック

みんなで考える施設のユニバーサル化



頑張る人に、
いいエネルギーを。



みんなが楽しめるユニバーサルな
がすてなーに ガスの科学館へ！

対話から生まれたユニバーサルを みんなのものに

1986年に開館した東京ガスの企業館「ガスの科学館」は、今の場所に移転し、
2006年から「がすてなーに ガスの科学館」として生まれ変わり、
これまでに300万人を超える多くの方々にご来館いただき、
エネルギーや環境について楽しみながら学べる施設として運営してまいりました。

そして2019年10月、障がいのある方や有識者の方々と対話をし、議論を重ね、だれもが利用しやすく
楽しんでいただけるユニバーサルな施設としてリニューアルオープンいたしました。

このコンセプトブックは私たちに考えながらカタチにしたユニバーサル化について、
その過程とともにわかりやすく紹介するものです。

みなさまが施設やイベント等でユニバーサルな配慮が求められるときや、困ったときなど
一つのご参考としてご覧いただければ幸いです。

私たちの歩みはこれからも続きます。

そして私たちの一歩が、次のだれかの一歩につながりますように。

東京ガス株式会社



目次 Index

がすてなーに ガスの科学館の、対話から生まれたユニバーサル …… 01

がすてなーに ガスの科学館 さらなるユニバーサル化への歩み …… 03

1 施設のあるべき姿を考える …… 05

2 障がいのある方々と施設をチェック …… 07

3 みんなで対話しながらユニバーサル化を計画 …… 08

4 もっとユニバーサルな施設へ …… 09

建築・サイン	点字ブロック	09
	障がい者用駐車場	10
	入り口サイン	10
	案内サイン	11
	だれでもトイレ	11
	授乳室	12
	環境照明	12

展示・グラフィック	什器	13
	演出	14
	グラフィックパネル	15

ツール・運営	制作物	17
	案内スタッフ	17

5 ユニバーサル化の検証 …… 18

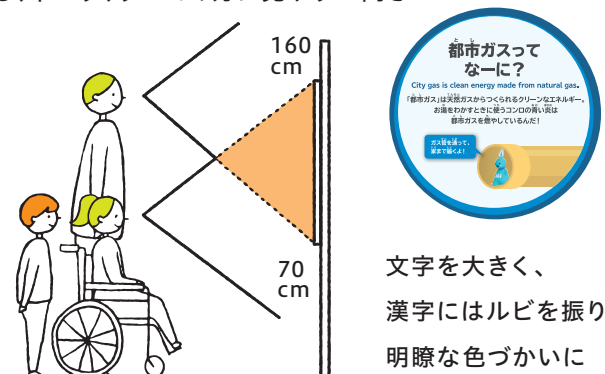
がすてなーに ガスの科学館の、対話から 生まれたユニバーサル

その歩みをご紹介します

だれも見やすい 展示パネル

ユニバーサルフォントを使用し、色弱の方でも
わかりやすい配色を、専用のチェックツールで
シミュレーションしながら展示パネルを作成しています。
また、すべての方に見やすい高さに設置しました。

大人、子ども、車いす、すべての方に見やすい高さ



文字を大きく、
漢字にはルビを振り
明瞭な色づかいに

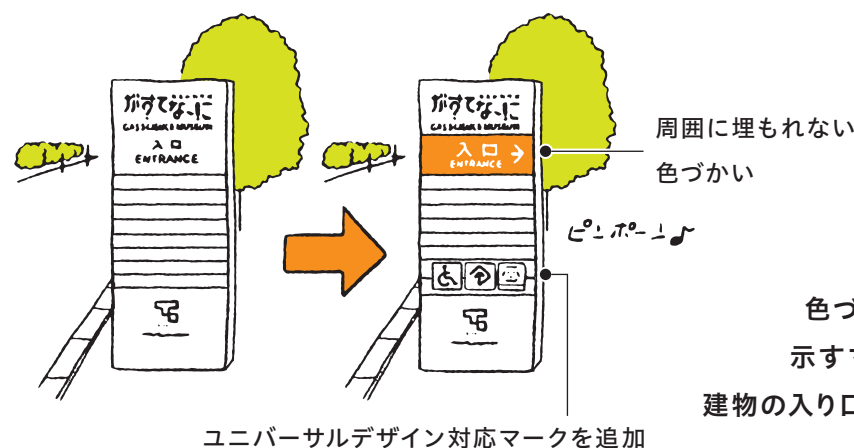
使いやすさに こだわったトイレ

体を支える力が入りにくい方が
使いやすいように、背もたれを設置したり
手洗いの位置などを工夫し、
だれでもトイレを改修しました。



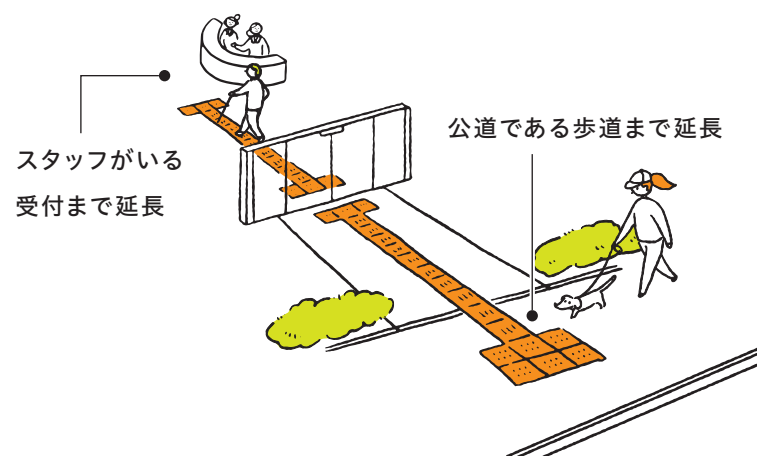
存在感のある サイン

入り口のサインを周りの環境に埋もれない
色づかいに変更し、ユニバーサルデザイン対応を
示すマークを新たに加えました。盲導鈴を設置し、
建物の入り口を音によりご案内する工夫も追加しました。



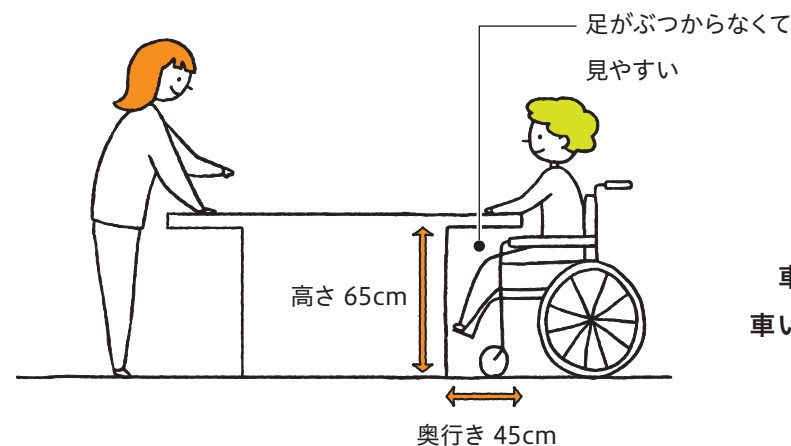
受付までつづく 点字ブロック

視覚障がいのある方が安心して
ご来館いただけるよう、公道である施設前の
歩道から、スタッフがいる受付のそばまで
点字ブロックを延長しました。



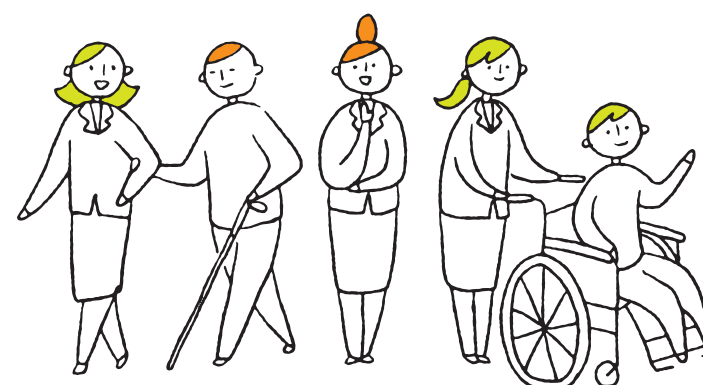
車いすで 楽しめる施設

幅の広いスロープや館内の通路、
車いすでも体験しやすい展示什器の形状など、
車いすで安心して快適にお楽しみいただくための
環境づくりに配慮しました。



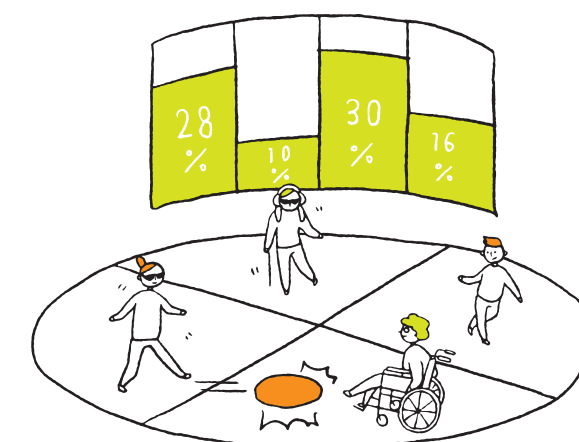
魅力ある体験を 考えるきっかけに

だれもが一緒に楽しめるオリジナルのスポーツをはじめ、
すべての人がいきいきと暮らせる共生社会を
考えるための体験プログラムを用意しました。



楽しみ方も多彩な 展示演出

見た目に楽しいデザイン。
聞いて楽しい効果音。触れて楽しい体験。
どなたでも楽しみながら学べる多彩な
演出方法を展示に盛り込みました。



意識を高めた おもてなし

スタッフ一人ひとりが、手話をはじめ、障がいのある方や
高齢の方への対応などを日々学びながら、
施設や展示の作りだけではない、心のこもった
ユニバーサルなおもてなしに努めています。

がすてなーに ガスの科学館 さらなるユニバーサル化への歩み

Start

1

施設のあるべき姿を考える

みんなで理想の施設像を思い描き、基本方針を策定。

Research!

先行事例や関連基準を調査し、有識者の方にご意見をいただく。

2

障がいのある方々と施設をチェック

障がいのある方々と一緒に駅からのアクセスや施設全体を見て回り課題を探し出す。

さまざまな目線で課題を見つけよう

3

みんなで対話しながらユニバーサル化を計画

障がいのある方、有識者の方などが同じ場に集まり、さまざまな意見交換を行った。

みんなが納得できる方針を

Meeting!

4

もっとユニバーサルな施設へ

施設全般のユニバーサル化を実施。

建築・サイン

展示・グラフィック

●点字ブロック

●什器

●障がい者用
駐車場

●演出

●入り口サイン

●グラフィックパネル

●案内サイン

ツール・運営

●だれでもトイレ

●制作物

●授乳室

●案内スタッフ

●環境照明

みんなのがすてなーにガスの科学館へ！

みんなに見える？わかる？

だれもが楽しめる施設に！

ご来場しやすい施設に！

心をこめたおもてなしを！

Go! Next //

コンセプトブックを制作！

5

ユニバーサル化の検証

リニューアル後の施設で障がいのある方々と一緒にユニバーサル化をチェック！

客観的にチェック！

Check!

ユニバーサル化をみんなで共有

ガスの科学館で行ったユニバーサル化の実施内容やプロセスをみんなで共有。

ユニバーサル化の歩みに
終わりなし

Renewal!

2019年10月

がすてなーに
ガスの科学館
リニューアル
オープン！

1 施設のあるべき姿を考える



だれでも楽しく快適にご利用いただける「がすてなーに ガスの科学館」とはどのような施設か。理想の施設像を思い描き、ユニバーサル化の基本方針を策定しました。

がすてなーに ガスの科学館のあるべき姿とは

だれにとっても 利用しやすい施設

障がいのある方や高齢者、外国人など多様な人々が、ストレスを感じることなく、快適に利用できる施設。

だれにとっても 楽しめる施設

訪れるすべての人が、スタッフとのコミュニケーションや展示、プログラムなどを楽しく体験できる。

だれにとっても 学べる施設

展示やプログラムを体験するすべての人が、エネルギーやこれからの暮らし・社会について考え、学ぶことができる。

ユニバーサル化の基本方針

すべての人が利用しやすく、エネルギーやこれからの暮らし、社会について楽しく学び、体験できる施設を、みんなでつくる

● 国や東京都の基準等を参考にしながら、障がいのある方とともに検証し、考える。

● 情報の伝え方、体験の仕方、コミュニケーションを重視し、検討する。

● 現状の展示に対する、障がいのある方による評価を踏まえ、検討する。

● だれにとっても使いやすさを損なわないように、バランスを考慮していく。



ポイント

国内外の施設事例や、ユニバーサルデザインに関わる基準類を参考に、有識者の方に意見をいただきながら、ユニバーサル化の基本方針を策定できると理想的です。

● ユニバーサルデザインの先行事例や関連基準を調査しました。

国内外の美術館・博物館に見られる
ユニバーサルデザイン状況を調査

ユニバーサルデザインに関する
基準類を参照

協力：株式会社丹青社

内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部

- ユニバーサルデザイン2020行動計画
- 心のバリアフリー

公益財団法人
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

- Tokyo 2020 アクセシビリティ・ガイドライン

国土交通省

- ユニバーサルデザイン政策大綱
- バリアフリー新法(改正)

東京都

- 福祉のまちづくりを進めるためのユニバーサルデザインガイドライン
- 東京都カラーユニバーサルデザインガイドライン

● 有識者の方にご意見をいただきました。

さまざまな障がいのある人たちが普通に暮らせる社会の重要性！

見えないことや歩けないことなどが障がいなのではありません。見えない人や歩けない人などのことを考えずに、建物やサービスなどが作られてしまっていることが障がい＝社会的障壁なのです。私たちの社会は、障がい以外にも、年齢、性別、国籍などが異なる人が共存しています。だれもが安心して活動・参加できる平等な社会を構築するためには、まず、積極的にコミュニケーションを取って、多様な人が共に暮らしていることを知ることが大切です。



中野 泰志 慶應義塾大学経済学部教授

プロフィール

国立特殊教育総合研究所視覚障害教育研究部研究員、
東京大学先端科学技術研究センターバリアフリープロジェクト
特任教授などを務める。現在、慶應義塾大学経済学部教授。

2 障がいのある方々と施設をチェック



障がいのある方々と一緒に施設を確認。

駅から「がすてなーに ガスの科学館」へ向かうアクセスにはじまり、館内の設備や展示について、それぞれの視点でチェックしました。

聴覚障がいのある方と行ったワークショップの様子



周りが
暗くて手話が
見えづらい

テロップの
無い映像は
よくわからない

視覚障がいのある方と行ったワークショップの様子

触ることで
わかったり、楽しめる
ものが少ない

弱視では
見えづらい
ものが多い



車いすをご使用の方と行ったワークショップの様子



遠回りしないと
いけないのは
大変

車いすでは
近づけない
展示も多い

協力：株式会社丹青社



ポイント

障がいのある方々に施設まで来ていただきチェックをする際、対応に十分配慮するために、まずは障がいの種別ごとに日にちを分けて来場いただくことが望ましいです。

3 みんなで対話しながらユニバーサル化を計画

障がいのある方、有識者の方、そして、「がすてなーに ガスの科学館」のスタッフが一堂に会して意見交換し、ユニバーサル化計画をとりまとめました。



聴覚障がいのある方のご意見

視覚的にわかりやすくすることに加えて、ゆっくり話してもらするなど相手に合わせたコミュニケーションをとってほしい

視覚障がいのある方のご意見

全盲の方には触知マップなど見えなくても楽しめる工夫を…弱視の方にはなるべく見える工夫を…

車いすをご使用の方のご意見

まずはアクセシビリティ。車いすの形状だけでなく、腰に力が入らないことも想像してほしい



共通のご意見

事前に設備情報がわかるとよい。まずは楽しめることが大切。配慮を意識しすぎて魅力を損なわないようにしてほしい

有識者のご意見

知的障がいのある方についても、また、海外から来られた方や妊婦、高齢者といったすべての方に向けた配慮も必要

協力：株式会社丹青社



ポイント

チェックした後は参加した方々が一堂に集まり、ディスカッションできる機会を設けることが大切です。さまざまなご意見・ご要望をいただくこととなりますが、必ずしもそのすべてを実現できるとも限らないため、全員で納得のいく落としどころを共有することも大切なことです。

4 もっとユニバーサルな施設へ



建築やサイン、展示やグラフィック、ツールや運営など施設全般をさらにユニバーサル化し、だれでも来場しやすい施設へとリニューアルしました。

建築・サイン

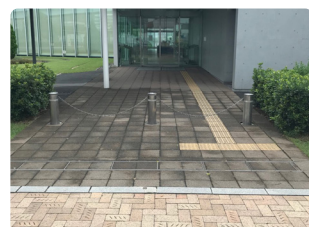
点字ブロック

視覚障がい対応

POINT つづく点字ブロックで、安心を途切れさせない。

before

入り口の点字ブロックが敷地内にしかない…



点字ブロックが敷地内にしかないため、手前の歩道を歩く視覚障がいのある方からは入り口がわかりません。

after

公道である歩道まで点字ブロックを延長！



ポイント

道路の管理者には施設の公共性をご理解いただいた上で綿密な協議が必要です。

before

施設に入ると点字ブロックがない…



施設内に入ると点字ブロックが入り口のインターホンまでしかなく、視覚障がいの方にとっては非常に不便でした。

after

スタッフがいる受付まで点字ブロックを延長！



ポイント

車いすをご使用の方にとっては点字ブロックが通行の障害となる場合もあります。人の動線計画時に充分配慮しましょう。

before

エレベーター内の操作パネルの位置がわからない



視覚障がいの方にとって、通常と異なる位置にある操作パネルはどこにあるかわかりません。また、点字シールがないと操作ボタンの識別もできません。

after

点字ブロックを設置し、操作ボタンに点字シールも！



ポイント

エレベーターの形状はさまざまです。自身で目をつむってみるなど、障がいのある方の身になって課題を見つけましょう。

建築・サイン

障がい者用駐車場

車いす対応

POINT “ゆとり”のある障がい者用駐車スペースを

before

障がい者用駐車スペースが1台分しかない…



1台分しかない障がい者用駐車スペース。乗降スペースも不十分で車いすをご使用の方の乗り降りにとても不便でした。

after

2台分に増やし、スペースにゆとりも！



ポイント

車体用スペースと乗降用スペースを合わせて最低でも3.5mは必要です。なおかつ、乗降用スペースは左右ともがあると理想的です。

before

車いすで通りにくい…



スロープを昇りながら、車いすの向きを変える必要があり、車いすが左右に大きく傾いてしまい、危険でした。

after

楽に通れる安全なスロープに！



ポイント

車いすの向きを変えるところはあるべくフラットにし、車いすが左右に傾かない形状の工夫など、操作性・安全性に最大限配慮しながら計画しましょう。

建築・サイン

入り口サイン

高齢者対応

視覚障がい対応

聴覚障がい対応

車いす対応

POINT 「色づかい」でサインの存在感を高め、「音」によるご案内も

before

サインが周囲の色と同化して見づらい…



周囲の環境にサインが埋もれている印象で、ともすれば見えにくく、気づきにくいサインでした。

after

カラーリングを見直し、音によるご案内も追加！



ポイント

色彩は周辺環境と合わせて検討し、ユニバーサル対応を示すマークの掲出や盲導鈴による音のご案内も同時に検討しましょう。

ユニバーサル対応を示すマーク



耳マーク

POINT ユニバーサル対応を示すマークは、わかりやすい場所に

before

ユニバーサル対応の案内がない…

障がいのある方にとって重要な情報である施設のユニバーサル対応を示すマークがありませんでした。

after

だれもが通る場所にユニバーサル対応を示すマークを掲出！



ポイント

入り口や受付といっただれもが通る場所に、大人、子ども、車いすをご使用の方などだれもが目しやすい高さに設置しましょう。

POINT あらゆる人の使いやすさにこだわって改修

before

だれでもトイレのユニバーサル化が不十分…



after

実際の使いやすさにこだわって改修！



ポイント

障がいのある方のみならず、介添えの方も含めて、実際に使われる方々のご意見を、柔軟な姿勢で受けとめることが大切です。

- 手洗いの位置が便器から遠い
- トイレットペーパーの高さが介添えの方には低すぎる
- 体幹の無い方にとって便座が座りづらい
- 手に力が入りにくく、水を流すレバーが押しにくい 等

設置当初、ユニバーサルに配慮してつくられたはずの設備も、年月の経過によってまだまだ課題があったことが明らかとなりました。



手洗いは座ったまま使いやすい位置に



トイレットペーパーを2段階の高さに設置



身体を支える背もたれを設置



だれにでも使いやすいリモコンに

POINT スペースを効率的に使い、同時に使用できる人を増やす

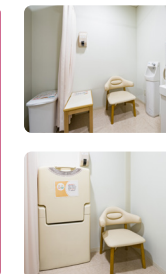
before

一度に1組しか使用できない…

授乳室が一度に1組しか使用できないため、お待ちいただく方、あるいは、だれでもトイレをご使用になる方もおり、ご不便をおかけしていました。

after

スペースを効率化し、一度に2組使用できるレイアウトへ！

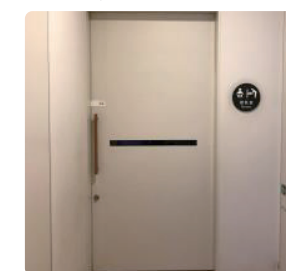


ポイント

限られたスペースを、同時に多くの方にご使用いただけるようレイアウトを見直しました。自分でも座ってみながらほどよい広さを考えましょう。

before

引き戸が重たいし、手を挟みそう…



プライバシーを重要視するあまり、扉はしっかりとした引き戸にしてありましたが、赤ちゃんを抱きかかえながらの開け閉めが大変でした。

after

開け閉めしやすいアコーディオンカーテンに変更！



ポイント

「がすてなーに ガスの科学館」では特に設置場所が奥まっている場所であるため、この形がベストと考えました。プライバシーに充分配慮し、適した形を検討しましょう。

POINT 展示や体験の内容に合わせて照明環境を最適化

before

暗い場所は説明する人の口元が見えにくい…

展示室では、地下をイメージした演出や、個々の展示物が引き立つよう照度コントロールを行っていたため、全体の照度を抑える設定としていました。しかし、聴覚に障がいのある方などは、説明する人の口の動きを読み取ることもあるので、暗くしすぎずに適度に明るさを保つことが求められました。

after

全体照度を一定以上に保ちながら、各所を最適化

〔展示・解説パネルまわり〕

学校の教室の明るさ程度である300lxを目安に



〔映像・光を利用する演出まわり〕

周辺を20～50lxを目安に抑え、演出を見やすく



ポイント

計画時点では書類上で照度を必ず検証し、加えて実際に照明が設置された時点で現地での確認を行いましょう。

POINT 子ども、大人、車いすをご使用の方、どなたにも体験しやすい高さや形

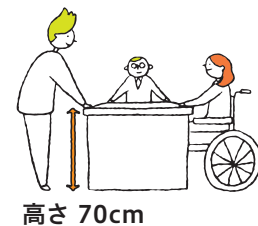
before

高めの水平テーブルは
車いすからは見えづらい

歩きながら見て回る大人の目の高さを基準に考えてつくられた展示では、水平になったテーブル上の情報や映像が、車いすの方や子どもの目線では見えにくい場合があります。

after

テーブル型什器の天板面をだれも見やすい高さに！



高さ 70cm

ポイント

テーブル面の高さは70cm程度が理想的です。テーブル面を少し斜めにつくると、情報が見やすくなります。自身で車いすに乗り、確かめてみましょう。

before

車いすで
什器に近づけない...

車いすをご使用の方の場合、足もとが前に出ているので、足の入るスペースがない台などの展示什器では、体験するときに足がぶつかってしまうことがあります。

after

什器には車いすをご使用の方の足が収まるスペースを！



高さ 65cm
奥行き 45cm

ポイント

什器の足元に奥行き45cm、高さ65cm程度のスペースがあると理想的です。また、タッチパネルなどの場合、手が届きやすいように、台のサイズや形状にも配慮しましょう。

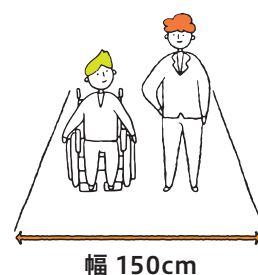
before

通路が狭いと車いすで
通りにくい...

介添えの方が車いすを押しながら方向転換できるようなゆとりある通路幅が求められました。ゆとりがないと、車いすで通る際に壁や什器に手が当たるなど、危険もあります。

after

車いすと歩行者がすれ違えるよう、ゆとりある通路幅を確保！



幅 150cm

ポイント

特に移動の順路が決められていない場所では、車いすでの方向転換、歩行者とのすれちがい等も考慮して150cm以上の通路幅を確保しましょう。ベビーカーや電動車いすも同様です。

POINT アナログ手法とデジタル手法をつかって、だれでも楽しめる場所に

before

目が不自由でも楽しめる
体験や展示を！

目で見えるものだけの展示では視覚障がいのある方は十分に楽しむことができません。手で触れたり、音を聞いて楽しめる工夫も必要です。また、すべての方が点字を読めるわけではないので、音声による解説なども必要です。

after

触って楽しい、聞いて楽しい手法の掛け合わせ！

手で触れてわかるもの



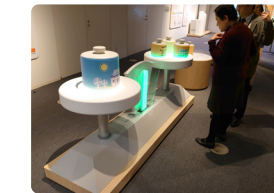
アナログ手法と効果音



ポイント

視覚障がいのある方にすべてを楽しんでいただくことは難しいかもしれませんが、小さな工夫など、できることを考えましょう。例えば、音を聞いたり、手で触れることで想像がふくらむ楽しさや、操作したことで反応する楽しさを工夫してみましょう。

アナログ手法と効果音



ボタンと音声による演出



before

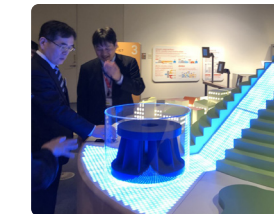
耳が不自由でも楽しめる
体験や展示を！

動きがあるものは、だれも見ているだけで楽しめます。映像はテロップがないと何を言っているのかわかりません。

after

視覚的にわかりやすい演出、映像には必ずテロップを！

光の演出



映像テロップ



ポイント

説明音声のある映像には必ずテロップを入れることに留意しながら制作をすすめましょう。

before

とにかく、みんなで
楽しめるものにして欲しい！

障がいに対する配慮や気づきはいはうれしいが、だからといってつまらないものにはして欲しくないという声をみなさんからいただきました。

after

楽しみながら共生社会を考えるための体験プログラムを用意！



ポイント

障がいのある方々と一緒に自分も楽しむにはどうすればよいかという視点で考えてみましょう。

みんなで一緒に楽しめるデジタルスポーツ「だれでも楽しめるスポーツってなに」

障がいのある方の視点で日常にひそむバリアを体験

POINT だれにとってもわかりやすい内容、見やすい表現で

before

内容のわかりやすさ、見やすさともに不十分…



after

情報を整理し、メリハリのある表現でわかりやすく！



<例：解説パネル「地球と仲良く暮らそう!」>

- タイトルと英訳、本文ともに同色で読み分けづらい。
- 解説文の文字が長く、理解しにくい。
- 文字が小さく読みにくい。
- イラストと文字が入り組んだレイアウトで見にくい。
- 小さな文字は濁点などの識別がわかりにくい。

POINT

- 視力・色覚などの多様性に配慮した色づかいで文字の色味を使い分ける。
- わかりやすさを損なわない範囲で文字数を抑える。
- 簡潔かつ平易な表現を採用。
- 「UD書体」のフォントで統一する。
- 漢字は少なくして、原則「総ルビ」とする。
- 読みやすい大きな文字サイズに。

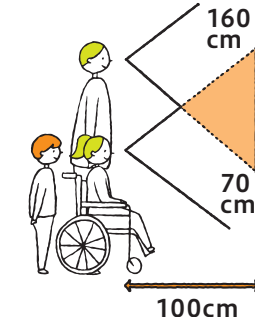
before

車いすでは高いところの情報が見えにくい

車いすをご使用の方に限らず、子どもたちからの見え方も同じです。壁面のグラフィックなどに情報を詰め込み、高い位置や低い位置まで入れてしまうと、人によっては見えづらくなります。

after

大人の目線と、子ども、車いすをご使用の方の目線が変わる高さに！



POINT

パネルやサイン等の情報は床から70cmと160cmの間の高さに掲出しました。普段目にするものに比べてだいぶ低く感じられると思いますが、だれにとっても見やすい高さとなります。

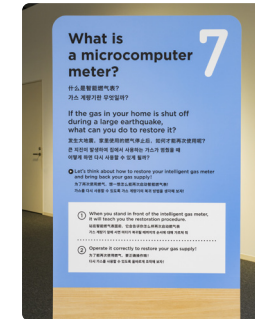
before

外国の方へのご案内まで行き届いていない…

日本語の他に、英語や中国語などの外国語を表記する配慮が必要ですが、どうしても文字量が多くなってしまうことから、対応が不十分となりがちです。

after

体験上重要なグラフィックに英語、中国語、韓国語の翻訳文を掲載



POINT

マップや体験方法を説明するものには翻訳文を掲載した方が親切です。その他にタブレットやスマートフォンを活用する方法もありますので検討してみましょう。

【UD書体について】

UD書体とはだれも見やすく、読み間違いをしないように考えてつくられたものです。

一般的なゴシック体

誰もが

UD書体

「がすてなーに ガスの科学館」で使用している「TBUDゴシック体」

誰もが

点を大きく
空きを大きく

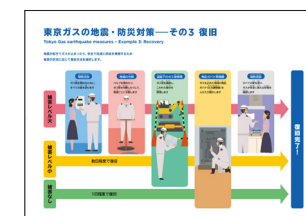
※UD書体には他にもさまざまな種類があります。

【色彩のチェックについて】 ※「がすてなーに ガスの科学館」では、カラーUD支援ツール「UDing」を使用しています。

カラーではなくモノクロで見ると、文字の見やすさは一目瞭然です。その他に専用のチェックツールソフトなどを用いながら、異なる色覚のそれぞれの見え方について検証ができます。

色弱の方の色覚には大きく分けて3種類あります。それぞれに見え方が異なりますので、3種類それぞれの検証を行うことが理想です。

■ 通常の見え方



<チェックツールソフトを使用した検証例>

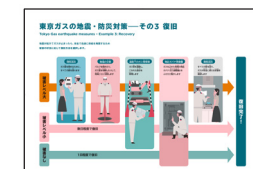
■ 1(P)型2色覚の見え方



■ 2(D)型2色覚の見え方



■ 3(T)型2色覚の見え方



POINT 展示や運営のユニバーサルをツールでサポート

〈触知マップ〉

触れてわかるフロアマップ



ポイント

視覚障がいのある方が、点字や凹凸を指で触ることで情報を得られるようにした案内図です。ノウハウを持つ印刷会社等に問い合わせてつくることができます。

〈施設案内リーフレット〉

日・英・中・韓の4言語で展開



ポイント

UD書体のフォントを使用して4カ国語のリーフレットをつくりました。文字の大きさ・形・配色にも配慮し、見やすくしましょう。

〈ユニバーサルデザイン紹介パンフレット〉

二次元コードを用いた外国語音声読み上げ対応



ポイント

ユニバーサル化のポイントを簡潔にまとめたパンフレットには、二次元コードを読み取ることで、手持ちのスマートフォンで外国語への翻訳と音声読み上げができるサービスを採用しました。

〈コミュニケーションボード〉

指差しでコミュニケーション



ポイント

日本語の分からない方、コミュニケーションがうまく取れない方や聴覚障がいのある方との意思疎通に便利な、絵を指差することでコミュニケーションできるボードを用意しました。

POINT 施設や展示の作りだけではない、心のこもったおもてなしを

あらゆる方へのご案内方法を学んでいます



ポイント

施設面では対応できないことは、運営面でカバーすることが重要です。手話や英会話の勉強など、対応の方法や心がけを学びましょう。また、一声かけるなどのコミュニケーションを積極的に行い、心のバリアフリーを体現することが大切です。

5 ユニバーサル化の検証



障がいのある方、有識者の方が、リニューアルされた「がすてなーに ガスの科学館」を実際に体験し、ディスカッションを行いました。

さらなる改善点が見いだされ、貴重なご意見をたくさんいただきました。



ここは良かった！

もっとこうして欲しい…

視覚障がいのある方

■ 公道からつづく点字ブロックはよい。 ■ 音声によるサポートが不十分…。

聴覚障がいのある方

■ 視覚で楽しめるものはよい。 ■ 非常時の文字情報がないことに不安を感じる…。

車いすをご使用の方

■ 通路幅やパネルの高さはよい。 ■ 手が届かない、体験出来ないものもある…。

杖をご使用の方

■ みんなと遊べる体験はよい。 ■ 各展示に杖をおく場所があるとよい。

● 有識者の方にご意見をいただきました。

ユニバーサル化に終わりはありません。一緒につくっていかうと思う気持ちが大切です！

障がいのある方からさまざまな意見や感想がでしたが、ここからが始まりです。「がすてなーに ガスの科学館」は多様な人たちにとって、東京ガスさんにしかできない楽しさや感動を受けとれる施設になりつつありますが、まだ道なかば。さらにハード面の配慮ももちろんですが、ソフト面である人的対応でカバーするということも含め、障がいのある方と一緒につくっていくことが大切です。



星川 安之 公益財団法人共用品推進機構 事務局長・専務理事
プロフィール

1980年(株)玩具メーカーのトミー工業に入社、新設の「H・T研究室」に配属される。1999年(財)共用品推進機構設立時より事務局長・専務理事を務める。平成26年度工業標準化事業 経済産業大臣表彰受賞。著書に「共用品という思想」、「アクセシブルデザインの発想」共に岩波書店 など